

令和7年度 生物資源産業学部学生と学部長・専攻長等との懇談会 要旨

日 時 令和7年10月29日（水） 16:30～17:30

会 場 地域創生・国際交流会館5階 フューチャーセンター

出席者 別紙のとおり

はじめに、服部学部長より本懇談会開催にあたり挨拶があり、教員自己紹介、学生自己紹介、その後は、学生に対して行った事前アンケートを基に、参加学生から意見を伺い、教員が回答する形を取った。意見・回答は次のとおりである。

授業・実習及びカリキュラムについて

学 生：実習の後の課題を提出しても、それに対するフィードバックが得られていない。自分の考察が合っているのかということも知りたいので、是非フィードバックをしてほしい。

教務委員長：コースによって対応が異なるが、フィードバックがあった方が学生の実習成果を高めることができると思う。教務委員会でも呼びかけていく。

学 生：授業を選択する際にシラバスを参考としているが、実際の授業で書いていることが異なる場合が多かったので改善してほしい。

コース長：授業評価アンケートに項目があるので、記載してほしい。

教務委員長：シラバスを記載するのが1月となっている。大学院の場合は、様々な専門家の講義を聴くことが有効だと考えて機会を設けているが、3月頃に決定する場合があるため、多少の変更については理解してほしい。変更になる場合は、授業の始めに説明をしていく。

学 生：生物生産システムコースの授業であるが、教員が疑問や質問のしやすい環境となっている。課題とは別に質問の項目が設けてあり、授業中に質問に対する解説、個別メールでのフィードバックが行われており、能動的に授業を受けることができている。個々に目を向けてくれていると、質問がしたいという気持ちもでてくる。

学 部 長：自身は新野からオンライン授業などを行っていて、必ず質問の時間を取っているので、そういった意見はとても励みとなる。

コース長：生物生産システムコースは教員との物理的距離が離れており、研究領域も広いと、研究室に所属されたときにコミュニケーションを取ってほしい。

学 生：授業外に行っている活動の紹介や、雑談の中で質問を受け付けてくれるなど、交流しやすい環境を作ってくれた。

コース長：教員としても、質問をしてくれるとありがたい。学生からのリアクションがあると、どこがわかりにくいかを把握でき、例を示したりしながら、授業を組み立てられる。

授業以外の大学生活について

学 生：遠方から通っている学生が、空き時間に居る場所がなく困っている。普段は図書館で自習ができているが、テスト期間になると混雑していて、自習をできるスペースがない。

学 部 長：授業がない教室について、自習室として開放されてもいいのではないかと考えている。

学生委員長：総合科学部3号館2階のピロティが空いているが、エアコンがついていない。授業がない教室について、自習室として開放されているのか。

事務：他学部の管理であるので、確認させてほしい。総合科学部1号館にもオープンスペースがあり、誰でも利用可能なので、そちらも使用してほしい。

学生：M1の時に就職活動を始めたが、早期化が進んでいる。夏のインターンシップに参加した方がいいという先輩の意見もあり、研究・授業と就職活動の両立が大変だった。

コース長：インターンシップは就職と結びつかない。就職活動に振り回されすぎないでほしいと個人的に感じている。

学生：研究室の居室が狭く、大学院生しか座ることができず、学部生の居場所がなく、別の部屋を使用している。実験室も使えなくなるという話も聞いており、不安を感じている。

学部長：学部の建物がなく、大学にも要望しているところである。歯切れの悪い回答で申し訳ない。

学生委員長：鬼塚先生の研究室であれば、産官学連携プラザの居室を借りることはできるのではないかとオープンスペースなど、学部で利用できる場所を要望していきたい。

コース長：応用生命コースは常にこの話がでており、さらに改修があり、このような状況になっていて申し訳ない。

教務委員長：改修に伴い、割り当てられた部屋が少し余ってくる予定。1～2年の期間限定ではあるが、12月頃から使えるようになっている。

その後、服部学部長から挨拶があり、閉会とした。